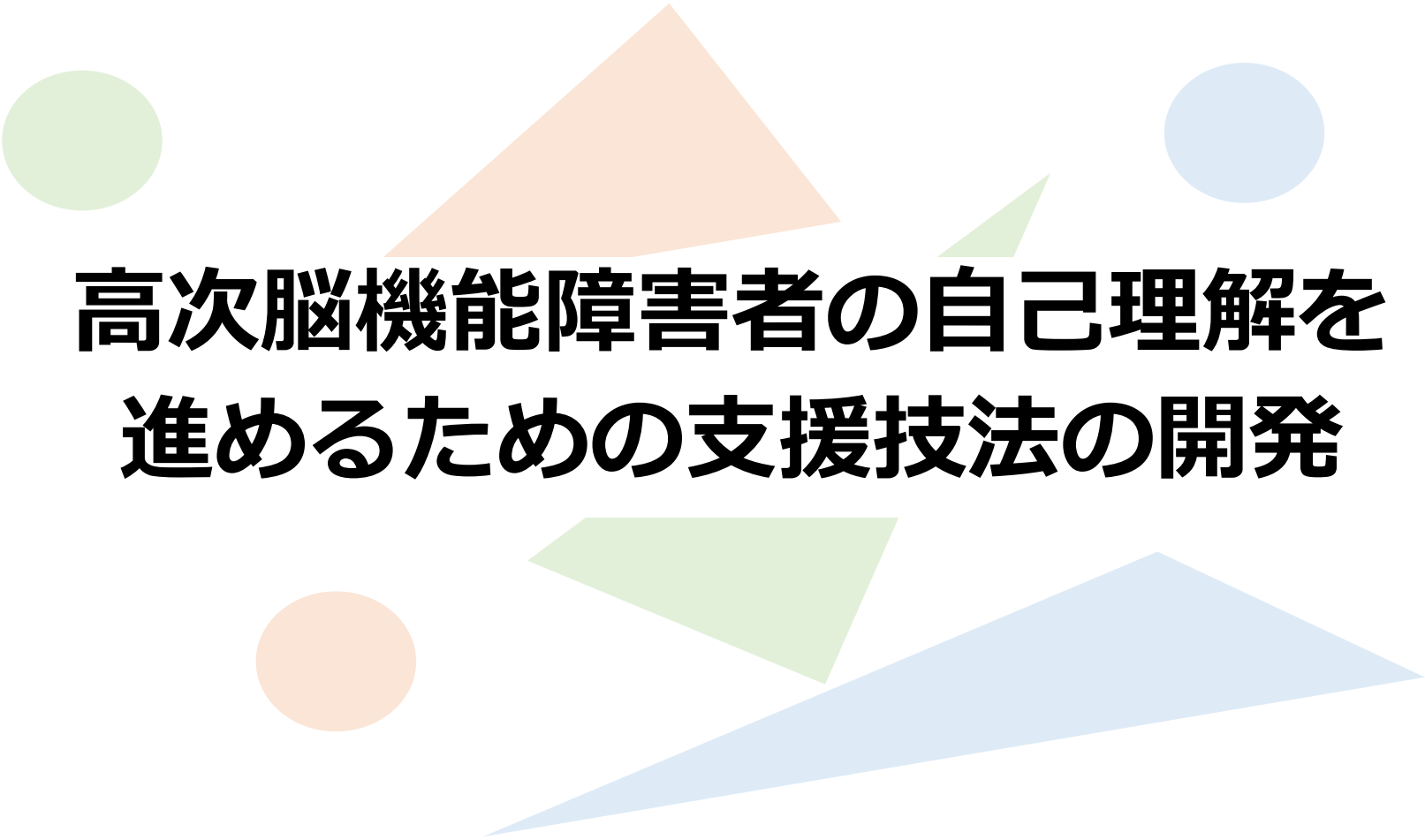


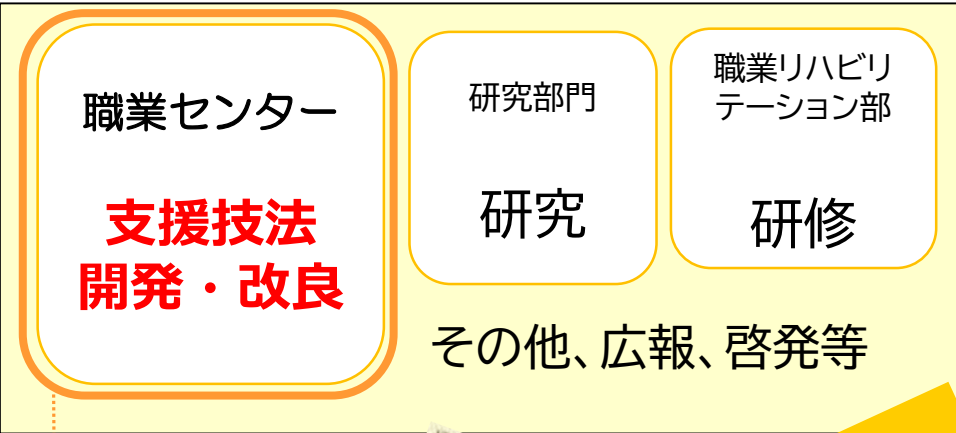


高次脳機能障害者の自己理解を 進めるための支援技法の開発

- 狩野 眞 （障害者職業総合センター職業センター 障害者職業カウンセラー）
古野 素子 （障害者職業総合センター職業センター 主任障害者職業カウンセラー）

障害者職業総合センター職業センターとは

障害者職業総合センター(幕張)



発達障害、精神障害、高次脳機能障害の方々や事業主等に対しより良い支援を提供するために、職業リハビリテーション技法の開発、改良、普及を行っている



普及



○技法開発のためのプログラムを実施

高次脳機能障害者の支援プログラム

高次脳機能障害者の就職、雇用の安定、復職を支援するプログラム

地域障害者職業センター



地域の職業リハビリテーションに関連する関係機関・人材

1 はじめに

令和6年度取り組み

- 高次脳機能障害者の自己理解に関する課題へのアプローチの難しさを感じるという声に対し、
高次脳機能障害者の自己理解を進めるための支援を検討する
- 今回は以下について中間報告を行う
 - ・支援方法について検討したこと
 - ・プログラムで実践した内容
 - ・今後の方向性

2 開発にあたって

(1)前提としてもっておくべき考え方・取組

表1 自己理解の支援を行う際に、
前提として持つておくべき考え方・取り組み方

信頼関係、協同関係の構築

支援対象者の目標達成に向けた支援

残存能力や「できるようになったこと」に焦点

多角的な視点でアプローチ

長期的な視点を持ち支援体制を考える

支援内容や活動の記録を見える化して共有

高次脳機能障害者の障害理解と職業リハビリテーション支援に関する研究(2022)より抜粋

● 専門家へのヒアリングでも、共通する意見が得られた



2 開発にあたって

(1)留意点

●支援効果の限界や、心理的リスクについても考えておくことが示唆されている

表2 留意点に関する文献調査・専門家からの意見(一部)

支援効果の限界について	
【文献】※1	問題や課題を事前に予測し対処するという理解ができようになるには、一定のメタ認知的知識(長期記憶に保存されている理解)が必要。
【専門家】	理解力が高い方だと教材を用いた心理的教育が有効な場合があるが、困っている実感がない方は、支援対象者自身が困るのを待つことが必要な場合がある。
心理的リスクについて	
【文献】※1	障害の否認が要因として考えられる場合、「自己理解」の深化に焦点を当てる教育的支援が、敵意や怒り、防衛反応を引き起こす可能性がある。
【専門家】	自己への気づきに焦点を当てると、抑制が効かなくなり周囲を巻き込んでしまう可能性や、抑うつをもたらす可能性がある場合、気づきの支援を無理に行わず、別の視点に目を向けて支援を行うことがある。

※1)文献 高次脳機能障害者の障害理解と職業リハビリテーション支援に関する研究(2022)



2 開発にあたって

(3)支援方法について

- 自己理解の深化に焦点をあてた支援だけでなく
深化以外に焦点をあてた支援の視点を持つことの
必要性が示唆されている

表3 支援方法に関する文献調査・専門家からの意見(一部)

自己理解に焦点を当てた支援例	
【文献】※1	障害や補完手段に関する心理教育を行い、実際の場面で起きていることと障害とを結びつける。
【専門家】	受障前と現在との変化を感じる経験が気づきになり、セルフ・アウェアネスを進める動機づけとなることはある。
自己理解の深化以外に焦点を当てた支援例	
【文献】※1	習慣化形成に重点を置く。 環境・周囲のネットワークへのアプローチ
【専門家】	周囲からの期待や自分がどうありたいかを、対象者自らが言葉で出力し、出力できたことを肯定する。

※1)文献 高次脳機能障害者の障害理解と職業リハビリテーション支援に関する研究(2022)

3 実践の進捗状況

今回の技法開発

- 「自己理解を進める」ことが必ずしも対象者の課題達成に必要な条件でない
- 自己理解の程度を柔軟に捉える
- 限られた期間において、対象者の目標達成を目指す



自己の特性、求められる職務や働き方について知識を得て、対象者自らが職務遂行に必要な補完手段を活用することや力を発揮しやすい環境を知るためにあるよい機会や支援方法を検討することとした



3 実践の進捗状況

(1) グループワーク

テーマ	内容
障害特性を理解する	記憶障害の学習カリキュラム 注意障害の学習カリキュラム 感情のコントロール
【New】働き方を考える	キャリア講習(高次脳機能障害者版) 「自分らしく働く」を見つける講座



構成
第1回 「興味関心を見つけよう」
第2回 「強みを確認しよう」
第3回 「価値観を確認しよう」
※役割について(期待されていることやサポートの確認等)、今後の働き方の検討は個別に実施

【試行状況】

- 5回試行
- 試行後、工夫すべき点を整理し、内容の改編、運営の見直しを行っている。



3 実践の進捗状況

(2)作業

「作業を進める工夫の検討シート(仮)」

目的	× 自己の特性や補完手段の有効性について考えることのみに焦点を当てる ○達成したい目標を細分化し、動機を高める
活用する対象者像	・作業課題の結果だけに焦点があたってしまう ・「ミスをした」「時間がかかった」など結果をネガティブに捉えてしまう ・他に原因に目が向いてしまう (例「手順書がよくない」「わざとミスが起きるように設定している」)

【試行状況】

- 作業課題の振り返りの際に使用。
- 項目の見直しや書きやすさなどを検討し、改良中

らしく、
はたらく、
ともに

JEED

3 実践の進捗状況

「作業を進める工夫の検討シート(仮)」

作業を進める工夫の検討シート

【振り返り】

作業名	
-----	--

この作業で 心がけたこと	手順を確認しないようにしよう
	早く終わらせよう
	ミスを出さないようにしよう
	困ったら、質問しよう
	その他 ()

やってみて 感じたこと	簡単だった ・ 難しかった
	もっと () すればよかった
	好きな作業だった ・ 好きではない作業だった
	疲れた
	その他 ()

【 参 考 】

他の受講者に よくある状況	結果
	・ 厚手着を着たままとしていた ・ 指定されていないものを着いた ・ カタログや請求書に書くときに、書き間違えた ・ 電卓での計算が違っていった ・ 記入していないところがあった ・ 違う回答を書いていた
行動・進捗	・ どの工程まで進んだか、分からなくなった ・ 両足の動きや姿勢に気をとられた ・ ほかの事の頭に浮かんだ ・ 体がぼんやりとしてきて、集中しづらくなった ・ 作業の終了時間が近くなり、焦った

作業を進める工夫の検討シート

【これからの目標と工夫】

作業名	
-----	--

【 参 考 】

他の受講者に よくある状況	結果
	・ 厚手着を着たままとしていた ・ 指定されていないものを着いた ・ カタログや請求書に書くときに、書き間違えた ・ 電卓での計算が違っていった ・ 記入していないところがあった ・ 違う回答を書いていた
行動・進捗	・ どの工程まで進んだか、分からなくなった ・ 両足の動きや姿勢に気をとられた ・ ほかの事の頭に浮かんだ ・ 体がぼんやりとしてきて、集中しづらくなった ・ 作業の終了時間が近くなり、焦った

今後取り組み たいこと (目標)	手順を確認しないようにしよう
	スピードはゆっくり
	ミスを出さないようにしよう
	困ったら、質問しよう
	その他 ()

工夫を考えてみよう
(これから試したいもの
二点)

道具 (ふせん・手帳・アラーム・タイマー・書見台・拡大鏡)
しゅちゅう・マスキング
雑誌 (目標・読書・ () 記録簿・「読書」を手帳に記す)
机上整理・整理やりの術を学ぶ
道具 (短靴・ノイズキャンセリングヘッドフォン)
休憩 (頻度・時間・タイミング)
作業時間の設定 (午前・午後はじめ・午後終わり)
作業実施日の設定 (週初め・週末・連続作業)
指示者の工夫 (伝え方・確認回数・メモやボード)
その他 ()

9

3 実践の進捗状況

(3) 振り返り(個別相談・グループミーティング)

個別相談	①気づきを得ることや補完手段の活用が目標の場合 ②気づきや認識が少ない、具体的な目標が定まらない場合 ※①②それぞれに対する振り返りの工夫
グループ ミーティン グ	■ 今(就職・復職の前段階)、今後(就職・復職後)で、 思うこと、考えていることをテーマに設定。 (特性に対する認識を深めるのではなく、日常生活や今後の職業生活を考えるワークとして設定) ■ スタッフが進行。対象者同士の意見交換。

【試行状況】

- 個別相談:活用したツールの整理
- グループミーティングは、3回実施。

5 今後の方向性

● 今後のプログラムで実践を重ねて

● R7.3月



実践報告書

発行予定

- ・ 試行した内容
 - ・ 作成した講座やツール等の紹介
 - ・ 実施方法、工夫点、留意事項
- …等取りまとめ予定



少しでも、皆さんに使ってみたいもらえる
支援のヒント、手がかりになれば幸いです！